営農型太陽光発電による
地域農業と再生可能エネルギー発電事業の共生

千葉エコ・エネルギー株式会社
代表取締役　馬上 丈司

略歴

馬上丈司（まがみ たけし）

1983年生まれ

千葉大学大学院人文社会科学研究科公共研究専攻博士後期課程を修了し、地方自治体における再生可能エネルギー政策の研究で**日本初となる博士（公共学）の学位を授与**される。

2012年に**千葉エコ・エネルギー株式会社を設立**し、営農型太陽光発電を含む再生可能エネルギー事業の普及拡大や研究開発に従事。

千葉市地球温暖化対策専門委員、八千代市環境審議会委員、農林水産省営農型太陽光発電有識者会議委員などを歴任。国立環境研究所客員研究員。

夫婦それぞれ
農業を仕事に
しています。

妻の実家の風景（千葉県いすみ市 高秀牧場）

飼養頭数 乳牛200頭　牧場敷地面積 23ha

飼料生産面積 165ha　飼料TDN自給率 85%

私たちの取り組みの特徴

- 2012年に**千葉大学発のベンチャー企業**として**再生可能エネルギーの事業化支援**を手がけるため設立。太陽光発電だけでなく、風力発電、小水力発電、地熱発電、バイオマス利用など幅広い再生可能エネルギー利活用支援の実績は累計**200万kW**以上。
- **主要なスタッフの3割が20代**、学生インターンもほぼ毎年受け入れているほか、農業部門の大卒者新卒採用も進めている。
- 大学発ベンチャーの立場を活かし、大学や政府系の研究機関などと連携した技術実証研究にも幅広く取り組む。

千葉市大木戸
アグリ・エナジー1号機

- 所在地：千葉県千葉市緑区大木戸町
- 地　目：畑
- 面　積：10,000㎡
- 遮光率：48%
- 作　物：葉物、根物ほか10品目程度
- 出　力：625kWac/777.15kWdc
- 竣　工：2018年3月
- 所有者：千葉エコ・エネルギー株式会社
- 営農者：千葉エコ・エネルギー株式会社
- 備　考：様々な実証実験を担う**基幹農場**

自社農業経営の状況

【圃場面積】

約15ha（グループ会社合計）

【栽培作物】

サツマイモ、ジャガイモ、大豆、イチジク、ブルーベリー、ナス、からし菜（土気からし菜）ほか

【千葉駅から】
車で約40分程度
公共交通機関で1時間程度
【東京駅から】
車で約1時間程度
特急＋タクシーで70分程度
千葉駅
約16km
大木戸町
稲毛区
美浜区
千葉市
若葉区
中央区
緑区
大網白里市
Google Earth
Image © 2024 Airbus

農場最寄りのバス停付近の景色

地域再エネ共同研究キックオフシンポジウム

古い歴史のある集落を抜け

坂道を登り切っていく先に

地域再エネ共同研究

広大な農地が広がっている

農地における
農作物生産と
太陽光発電の**共生**

農業・農村で再エネ事業に取り組む

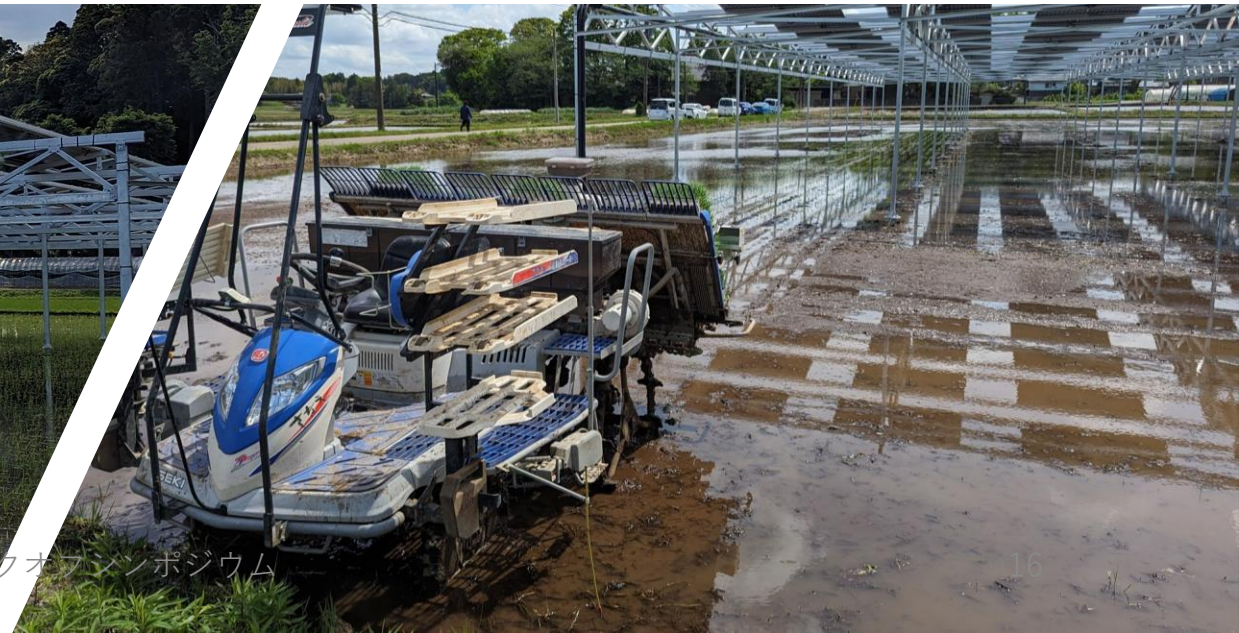
- 農業・農村の抱える課題には地域性があり、私たちの場合は**「政令指定都市の郊外における過疎農村」**がフィールド。
- **自ら農地を借りて農業生産に従事**し、法人として町内会に加入し、集落内の活動や催し事にも参加するなどしてきた。
- **社内のメンバーは20～30代が中心**であり、若者達が農業に参入し新しいことに取り組む姿が好意的に受け止められた印象。
- 農業と営農型太陽光発電の拡大に際しては、**地道に地権者の方々との人間関係を構築する**ことで取り組みを広げてきた。

私たちにしか出来ないことを模索する

- 集落内だけでなく**市役所や農政センターなど行政機関とのコミュニケーション**も図り、行政計画に営農型太陽光発電を取り入れていくことや、実証研究に取り組むといった活動も実施。
- **農林水産省の実証研究補助金などを獲得**したり、母校である千葉大学の倉阪研究室と共同でJSTの研究予算を獲得したりすることで、自分たちが取り組んでいることが社会にどう貢献するかを発信するための足場を着実に固めてきた。
- 同時に**「同じ地域の住民」**としての目線を常に意識する。

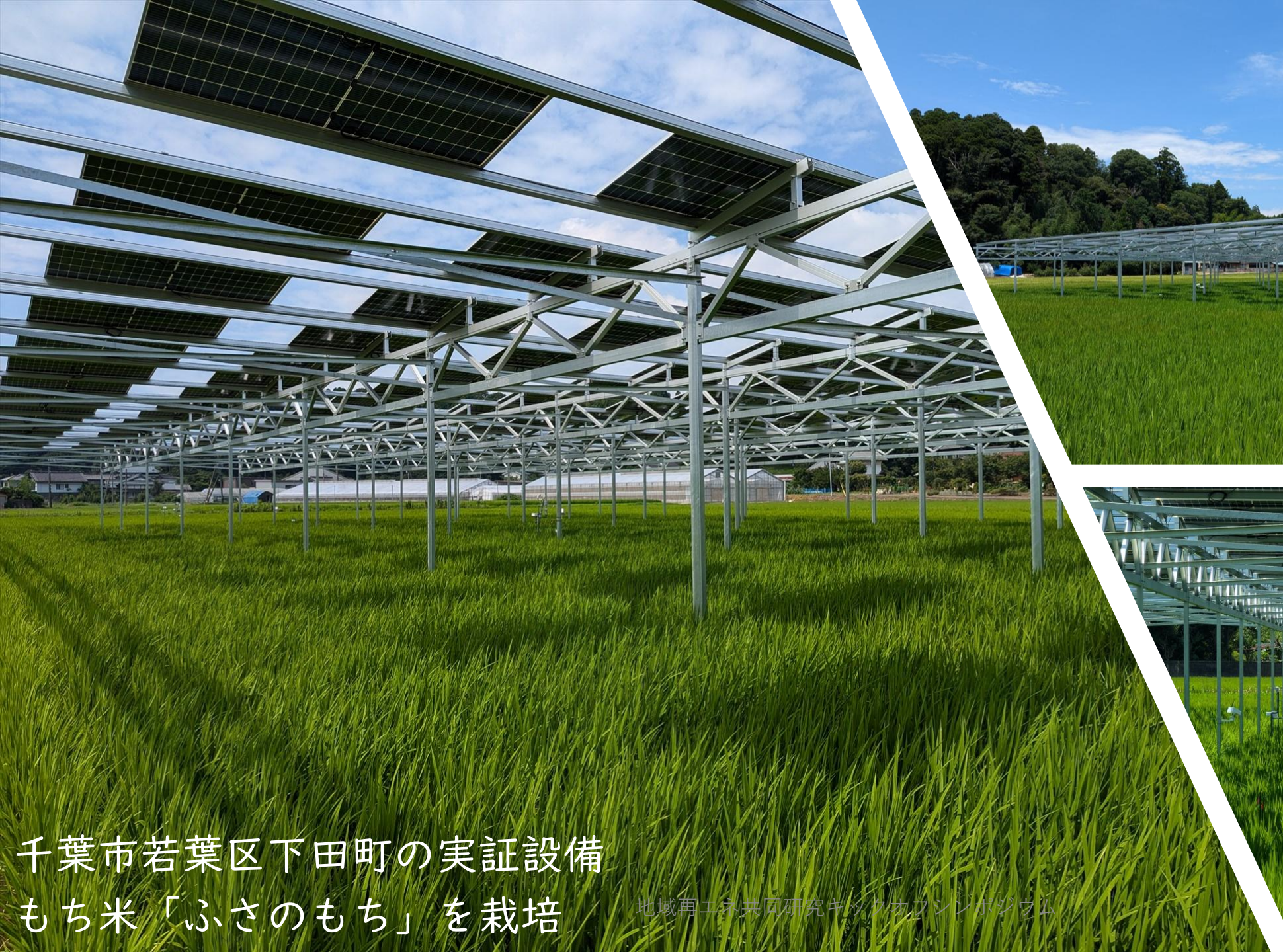
スマート農業技術と組み合わせた水田における営農型太陽光発電の実証

JST SOLVE for SDGs「ソーラーシェアリングを活用した自立型脱炭素スマート農地の確立と展開」



千葉大学倉阪研究室と

千葉エコ・エネルギー株式会社の共同研究



千葉市若葉区下田町の実証設備

もち米「ふさのもち」を栽培

大型農業機械が活用できる空間を確保

水稲の収穫量は設備内外で差異はなし

ヒートポンプ
燃油削減実証

千葉市SDGs対応型施設園芸推進協議会

何を考えながら取り組んでいるのか

- **自分たちが理想とする社会**をイメージする。その実現に向けた手段として地域における再エネ事業と農業がリンクしている。
- **当事者意識**を持ってその地域で暮らす。自分たちがどうしたら豊かに暮らせるか、自分たちの後に子供達の世代がそこでより豊かに暮らしていくためには何が必要かを考えていく。
- **未来は常に若者達のもの**である。旧い世代として自らの価値観や立場に固執せず、次の世代へとバトンを受け渡していく。
- **家族は最も身近な理解者**である。全てはそこから始まっていく。

農家自身が

「自分の子供にはやらせたくない」

そんな農業に、農村に、未来なんてない

気候変動に
適応する

スマート農業を
実践する

次世代を育て
未来に繋ぐ

農業と共に
自由に生きる

永続地帯研究

https://sustainable-zone.com/

脱炭素スマート農地研究会

https://www.de-carbon-farmland.org/

千葉エコ・エネルギー株式会社

https://www.chiba-eco.co.jp/

YouTubeチャンネル

https://www.youtube.com/@solarsharing